


文・編集・発行 / 齊藤新緑 Tel (0776-82-1141) Fax (0776-82-2261)

【齊藤新緑事務所】〒913-0001 福井県坂井市三国町池上 103-36

【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp

【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

# ほっとらいん

人に、まちに、いま、 元気の種をまこう。

## VOL. 88



「私は祖国を愛している。だが、祖国を愛せと言われたら私は遠慮なく祖国から出てゆく」  
チャーリー・チャップリン

「大衆の多くは無知で愚かである」  
「熱狂する大衆のみが操縦可能である。」  
「大衆は女と同じだ。私の後に従わせる。」  
「人々が思考しないことは、政府にとっては幸いだ。」

(アドルフ・ヒトラー)

▼チャップリンの「独裁者」

「申し訳ないが、私は皇帝などなりたくない。それは私には関わりのないことだ。誰も支配も征服もしたくない。できることなら皆を助けたい、ユダヤ人も、ユダヤ人以外も、黒人も、白人も。私たちは皆、助け合いたいのだ。人間とはそういうもの

なんだ。  
私たちは皆、他人の不幸ではなく、お互いの幸福と寄り添って生きたいのだ。私たちは憎み合ったり、見下し合ったりなどしたくないのだ。

この世界には、全人類が暮らせるだけの場所があり、大地は豊かで、皆に恵みを与えてくれる。  
人生の生き方は自由で美しい。しかし、私たちは生き方を見失ってしまったのだ。欲が人の魂を毒し、憎しみと共に世界を閉鎖し、不幸、惨劇へと私たちを前進させた。

私たちはスピードを開発したが、それによって自分自身を孤立させた。ゆとりを与えてくれる機械により、貧困を作り上げた。  
知識は私たちを皮肉にし、知恵は私たちを冷たく、薄情にした。  
私たちは考え過ぎて、感じなく過ぎる。機械よりも、私たちに人類愛が必要なのだ。賢さより必要なのだ。

そういう感情なしには、世の中は暴力で満ち、全てが失われてしまう。

## 絶望してはいけけない

君たち、人々は人生を自由に、美しいものに、この人生を素晴らしい冒険にする力を持っている

飛行機やラジオが私たちの距離を縮めてくれた。そんな発明の本質は人間の良心に呼びかけ、世界がひとつになることを呼びかける。  
今も、私の声は世界中の何百万人もの人々のもとに、絶望した男性達、女性達、子供達、罪のない人達を拷問し、投獄する組織の犠牲者のもとに届いている。  
君たちは家畜じゃない。  
君たちは人間だ。  
君たちは心に人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
愛されない者だが、憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。



君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。

私たちに覆いかぶさっている不幸は、単に過ぎ去る欲であり、人間の進歩を恐れる者の嫌悪なのだ。憎しみは消え去り、独裁者たちは死に絶え、人々から奪いとられた権力は、人々のもとに返されるだろう。

兵士よ。奴隷を作るために闘うな。自由のために闘え。『ルカによる福音書』の17章に、「神の国は人間の中にある」と書かれている。  
一人の間ではなく、一部の人間でもなく、全ての人間の中なのだ。君たちの中なのだ。  
君たち、人々は、機械を作り上げる力、幸福を作り上げる力があるんだ。

君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。

君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。  
君たちは心にも人類愛を持った人間だ。憎んではいけない。

（史上最高の演説。「いざれ憎しみは消え去り、独裁者たちは死に絶える」より）

# 教科書が教えない社会の仕組み

## (一) 世界を支配する国際金融資本と通貨発行権

▼「日本の保守現政権は、恐らく、アメリカの要求を、いやいやながら、次々と呑まざるをえないであろうし、徐々にではあっても、アメリカが仕組んだ、自己弱体化への道」を走るようになるであろう。

日本人の見る道路標識には、日本人好みの行き先が書かれることになるだろうが、裏側を見れば、英語で違う行先が印刷されているはずである。

親愛なる日本の読者諸兄に申し上げたいのは、自分が運転している道路わきの道路標識を見る場合、その標識は、いつ誰が、なぜそこに立てたのかを、ちよつと立ち止まって、考えて頂きたいということである。

運転手はあなたなのだから、その道を通った責任は、あなたにある。アメリカ人が無理にその道を走らせたのだ！という言い訳は、もう、役に立たない」  
(日本人への謀略 あるユダヤ人の証言)

▼「第二次世界大戦で完膚なきまでに敗北し、無条件降伏した日本は、1952年のサンフランシスコ講和条約で国家として再び独立したことになる。しかしその後から現在まで、アメリカの従属的立場にあることに変わりはない。」

日本にはいまだに130カ所以上の米軍基地が全国津々浦々にある。世界中の国に基地を持っているアメリカだが、首都に米軍基地があるのは世界中で我が日本だけである。

オバマ大統領の外交問題顧問を務めたこともあるアメリカの学者ブレジンスキーは「日本はアメリカの保護国である」と指摘している。保護国とは属国のことだが、世界はそう見ているのである。

事実、日本はアメリカの従属下にあるので、日本の意思決定は日本人自身ではできない。主権は国民にあるというのが日本国憲法の規定だが、属国である以上、本当の意味での主権はアメリカにある。上司のアメリカと日本の国民の意見がぶつかれば、どちらの意見を採用するのか？

上司の意見であることは明らかだろう。自民党から民主党に政権が移っても全く政策に変化がないのは上司が替わっていないためである。

そのために、アメリカ様の望む外資規制の緩和と構造改革、関税自主権を失う狂気のTPPなどを、

国民の利益など度外視して忠実に実行しようとしている。IMFのような国際金融機関の要望による消費増税も同じ構図である。

そのためにフル活用されるのが、戦後、アメリカが大切に育ててきたTVや新聞などのマスコミであり、学術機関である。従順な政権は長期政権になり、逆に上司と対立し変化を起こそうとする勢力は、子飼いのマスコミを使って徹底的に叩かれる。

こうして、世論を誘導しながら行う「操作される民主主義」による日本統治はいまだに順風満帆である。

私たちが、これまで学校教育や、新聞、TVなどのメディア、学者、専門家などによって、教えられ、伝えられ、信じ込まされてきたものは、国民の選挙によって選ばれた国会議員が内閣を形成し、政府という公的な行

政機関を持った国家が国際社会の主役であり、世界史を動かしてきたというものです。

各国政府が、様々な国内勢力に動かされていることを、もう一步踏み込んで考えれば、世界の実態は国家単位で、利益のために、世界情勢が動いているのではないというコペルニクスの思想転換をしないと、世界で何が起こっているか、世界はどこへ行こうとしているかがまったく分からなくなります。

「日本」、「アメリカ」、「中国」というように、国家単位で世界を考えれば、戦争は国と国がいがみ合って起きるとか、バブルが起こったり、デフレ不況になったりする原因が自然発生的な問題としてしか考えられなくなります。

私たちは、通常、自分の生活、地域、国、世界という順番に足元から世界を見ていますが、この世に、世界支配者がいて、各国をサッカーチームのように扱い、操っているという視点を持つと各々の問題が単なる国内問

題ではなく、偶然起きたものではなく、あるいは単発の問題ではなく、すべてつながり、歴史がつながってきます。

▼世界支配者＝国際金融資本家の存在  
「世界は舞台裏をのぞいたことのない人間には全く想像もでき

きない人物によって支配されている」  
(ベンジャミン・デイズリー)

「政治の世界では、何事も偶然に起こるといふことはない。もし何かが起こったならば、それは前もってそうなるように謀られていたのだ」  
(フランクリン・D・ルーズベルト)

ひとこと言えば、私たちが住む地球には、世界の政治経済を制覇するために、金融資本家たちの国際的ネットワークが存在します。

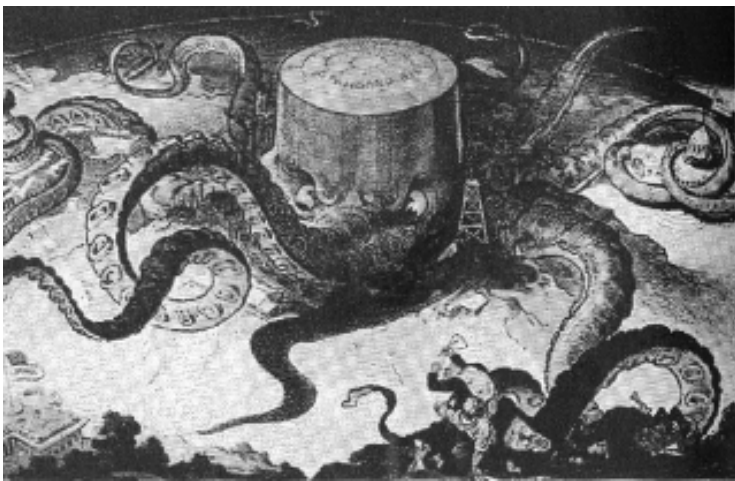
●「ロックフェラー達が世論を支配している！」

かつてマスコミの変節に気がついた第26代ルーズベルト大統領(在職1901～1909年)が職をしりぞいてから、語った重要な言葉がニューヨークタイムズに次のように掲載されました。

「これらの国際的銀行家たちとロックフェラーの石油会社との一味が、力づくで世論を動かす、影の政府を作って力をふるっている。アメリカの多くの新聞社や記事の内容は、彼らの命令に従わない政治家を追い出すために利用されているのだ」

次は、この記事を読んだ当時のニューヨーク市長ジョン・ハイラン氏の寄稿です。  
「セオドア・ルーズベルト氏の警告は、今日のアメリカだけでなく時代を超えたものである。我々の今日の社会における本物の脅威は、あたかも巨大な蟻がぬるぬるした長い足を市、州、そして国までもおおいっくしているような、陰の政府である。」

それは我々の政府高官、立法議会、学校、裁判所、新聞社、そして一般市民を保護するために存在するあらゆる政府機関を飲み込んでしまっています」  
「漠然とした一般論を抜きにしてはつきり言えば、この蝨の頭はロックフェラーのスタンダード石油の一味と、一般的に



ロックフェラー財閥がアメリカを食い尽くす様子を描いた100年前の風刺画  
この絵が示すとおり、国際銀行家の支配は金融、政治、軍事、マスコミ、医療、食糧、教育、エネルギー産業など社会のすみずみに至る。

国際的銀行家と称する少数のパワーある銀行家達のことである。

この少数のパワーのある国際的銀行家達は、彼らの利己的な目的のために、この合衆国政府を事実上運営しているのです」

「彼らは2大政党を支配し、政党の綱領を書き上げ、手先になる政党の指導者を養成し、私的な団体の指導者を使い、あらゆる方法を使って、腐敗した大きな企業の命令に従順な候補者だけが、政府の高官に指名されるように働きかけるのです」  
(1922年3月26日)

でもこんな記事を掲載できたニューヨークタイムズは、このときはまだ、今日のように完全にロックフェラーの支配下に置かれてなかったのでしょう。

この国際金融資本たちが、世界の金融を支配し、政治、軍事、マスコミをはじめ、ありとあらゆる産業(企業)を手に入れ、世界統一政府を樹立しようとしています。

世界統一政府などといえば、世界平和のようなイメージを持ちますが、支配者たちの独裁政府の元に、人々を家畜のように隷属させるものです。

その長期計画、「新世界秩序」(ニュー・ワールド・オーダー)の完成に向けて、マスコミの協力

によって、あと一步のところまで近づいているというのが、次の言葉からも伺えます。

「ワシントン・ポスト」、「ニューヨーク・タイムズ」、「タイム」誌を始め、その他大手出版社の重役の方々が我々の会議に参加し、四〇年もの長きにわたり、その内容を思慮深く秘密にしてくれたことに感謝したい。

もし、この間に我々の計画が世間の注目にさらされていたら、我々の世界計画を進展させることは不可能だっただろう。

しかし今日、世界はより洗練されて世界政府へ向かう準備が整った。知的エリートと国際銀行家による世界支配は、これまでの国家による支配体制より望ましいものである」

(ロックフェラー財閥の当主デービッド・ロックフェラー氏、一九九一年・三極委員会での演説より)

▼お金のしくみ  
①通貨発行権は誰のものか  
お金を発行する権利を「通貨発行権」といいます。

通貨発行権を持っていたら、いくらでお金を創ることができるところから何でも手に入りません。当然、銀行でお金を借りる必

要はありません。

一般的に、通貨を発行するのは国だと思われています。

しかし、それなら、なぜ国(日本政府)の借金が一〇〇〇兆円もあるのでしょうか?

### ②通貨発行権のない民主政治

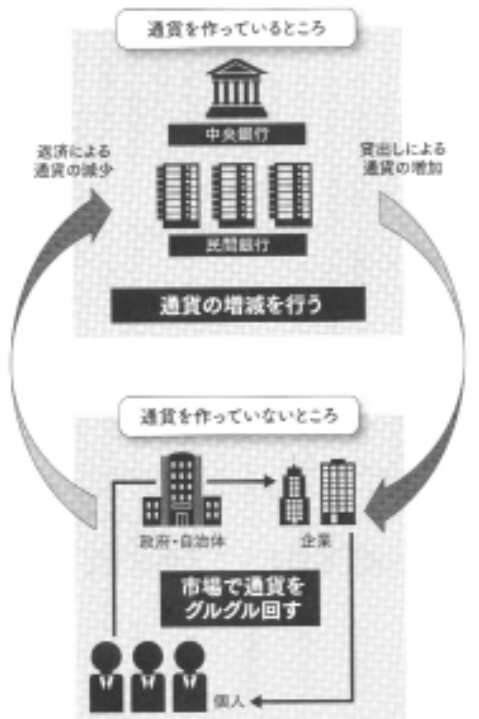
中央銀行が独立した民主政治では選挙で選ばれた政府は通貨発行権を持っていません。

政府の最大の役割は予算の編成であり、社会のどの部分にどれだけの資金を割り当てるのかを決めることですが、通貨の発行権がなければ、税収以上に予算が必要になった場合、増税するか、国債等を発行して借金する手段しかありません。

大抵の場合、増税は忌み嫌われるので、お手軽で手取り早い方法として国債の発行が用いられる。しかし、それだけでは有効な経済政策たりえません。

なぜなら、税金による再分配や国債の発行による「財政政策」だけでは、通貨を増加させることはできないからです。

その時の資金の調達先は、自らが金という通貨を管理し、紙幣という通貨も作れる最大の金持ちである銀行家です。



権を握ったのです。そこで、ネイサンは次のような言葉を残しています。

「王座に座って大英帝国を支配する傀儡など、誰でもよい。大英帝国の通貨供給を握る者がこの国を支配するのだ。それはこの私である」

▼戦争が銀行家に大きな力を与える

イングランド銀行の創設の件で分かるように、戦争は多くの利益を銀行家に与えます。敵対相手に勝たなければならぬ戦争では、財政が極限まで肥大化し、戦争ほど金のかかるものはありません。その時に国家の通貨に対する需要は最も大きくなります。

銀行家はその状況を利用して、国家と有利な条件で交渉し、通貨を貸付けるのです。

銀行家にとって戦争は長引いてもらったほうがいい。長引けば長引くほど国家財政は逼迫するからだ。そのため戦争を起こすように誘導し、長引かせるために銀行家は戦争の当事者双方に資金を貸付ける。

## すべてはお金の流れから見ると見えてくる

通貨を発行していない国は借金まみれになり、銀行家は莫大な収入を得ることができるといわれています。

多くの戦争の背後には銀行家の存在が見え隠れしています。

フランス革命とナポレオン戦争により全欧州が大規模な戦火に叩き込まれた結果、欧州各国は巨額の国家債務を抱えることになりました。

通貨発行権を持たない国家が財政赤字を抱えることは、国債を購入している勢力の権力を高めます。

戦争は国家が債務漬けになるとともに、武器、さまざまな部品、食料、輸送手段など軍事産業の総パッケージが提供されることになり、莫大な利益を生み出します。資本主義と結びつき、巨大な生産力を裏打ちした「軍産複合体」が登場しました。その資金は国家の債務でまかなわれ、主な債権者となる国際銀行家たちへの支払いが国民の税金によって調達されます。

▼19世紀のイギリスは金融権力そのもの

19世紀、イギリスは大英帝国となり、世界中に植民地を建設しました。しかしその大英帝国のコントロール権を握っていたのは銀行家たちです。ナポレオン戦争やクリミア戦

■世界に広がるロスチャイルド財閥 産業別系列企業

ABCとCBS (アメリカ三大テレビネットワークの二社)。  
『ニューヨーク・タイムズ』『ワシントン・ポスト』ロイター通信 (世界最大の通信社)。

金融関連企業など。  
【エネルギー関連】  
エクソン・モービル (多国籍石油ガス企業 E.S.S.O. 世界最大の株式上場会社)。G.E (売上世界第二位の多国籍企業)

【銀行・保険関連】  
ゴールドマン・サックス (世界最大級の投資銀行)。ロスチャイルド & サンズ (イギリスの大手投資銀行)。  
FRB (アメリカの中央銀行)。  
イングランド銀行 (イギリス国立の中央銀行)。

【軍需関連】  
ロッキード・マーティン (軍需産業で売上世界一)。BAEシステム (世界最大の国防産業)。デュボン (世界第三位の化学会社・火薬販売で成長、原爆製造に参加)。

【マスコミ関連】  
AP通信 (一般ニュース配信世準位)。NBC (アメリカ三大テレビネットワークのひとつ)。「ウォールストリート・ジャーナル」。

フランス銀行 (フランス王立の中央銀行)。HSBC (香港上海銀行 (絶産産業))。クレディ・スイス (富裕層向けプライベートバンク)。  
ラザール・フレール (フランスの大手投資銀行)。

【食品】  
コカ・コーラ (大手飲料水メーカー)。ネスレ (売上世界最大の食品メーカー)。  
ユニリーバ (食品・洗剤・ヘアケア製品)。  
ブルックボンド (紅茶)。  
ムートン・ロートシルトとラフィット・ロートシルト (世界最高格付け五大ワインシャトーのうち二つ)。

【軍需関連】  
ボーイング (世界第二位の軍需産業)。  
レイセオン (世界有数の軍需産業)。  
三菱系軍事関連企業。

BNPパリバ (フランスの大手銀行グループ)。  
カナダ・ロイヤル銀行 (カナダ五大銀行のひとつ)。  
アラブ投資銀行。ソシエテ・ジェネラル (フランスの大手金融機関)。  
グループ・ブリュッセル・ラバート (ベルギーの大手投資会社)。

【その他】  
フィリップ・モリス (米最大のタバコメーカー)。  
デビアス (鉱物会社)。  
ダイヤモンドを独占)。  
サノフィ・アヴェンティス (欧州最大の多国籍製薬企業)。  
大手ワクチンメーカー)。

【その他】  
ロックフェラー財団 (世界規模で福祉・教育活動を展開)。  
ロックフェラー大学 (医学研究を支援)。  
IBM (世界最大級のIT企業)。

【エネルギー関連】  
リオ・ティント (多国籍鉱業資源グループ)。  
金とウランをほぼ独占)。  
BP (国際石油系巨大企業複合体)。  
ロイヤル・ダッチ・シェル (世界第二位の石油企業)。  
GDF SUEZ (電力・ガス供給で世界第二位)。

【銀行・保険関連】  
JPモルガン・チェース (時価総額アメリカ第二位)。  
シティグループ (世界最大のネットワークを持つ全米で有数の銀行)。  
AIG (世界最大級の保険グループ)。  
アリコ・アメリカンホーム・AIGスター生命保険・GEエジソン生命保険など)。  
三菱系列の

以上が全てではないが、ロックフェラー財閥もロスチャイルド財閥同様、じつに幅広い産業に関わっていることがわかります。  
また、日本の四大財閥である三井、三菱、住友、安田などの財閥もロスチャイルド財閥やロックフェラー財閥の支援を受け、明治時代に大きく成長しました。

【マスコミ関連】

【銀行・保険関連】

【その他】

争、さらにその後の植民地獲得戦争などを通じて大英帝国は借金漬けになっていきました。

特にロスチャイルド家の影響は大きく、1865年から1914年の間にイギリス政府が発行した総額40億ポンドの国債のうち、ロスチャイルド家はその4分の1を引き受けています。

当然ながら大英帝国の政策には、国家の債権者としての銀行家たちの意向が反映されま

す。

イギリスの対外戦争は、国際銀行家とその下に従属するさまざまな産業集団の利益の代弁者として行われていきます。

エジプトやインドや中国との戦争もその結果生じたもので

です。  
また、欧州大陸に対しても、

強大な政治権力の登場を阻止するための政策を行っていきます。実際、強力な君主の下に統治されたロシア帝国は銀行家たちの政治的影響力がほとんど及びみ

ませんでした。

19世紀のイギリスが勢力均衡を国家戦略とした背景には、国家の債権者としての銀行家たちの意向があつたのです。

▼革命運動も権益を広げるための有効な事業活動

戦争とともに革命も国際銀行家に大きな利益と権力をもたら

します。

16世紀以降に始まった旧来の王侯貴族の権力を倒す革命運動は、富を独占する国際銀行家にとつてライバルを叩き潰す絶好の手段となりました。

革命の結果もたらされる財産

権の保護や、商業の自由、身分制の廃止、政治・金融分離の民主主義は、通貨発行権を独占する銀行家にとつては、権

力をさらに拡大するの

に好都合な環境をもたらします。

国際銀行家は、革命勢力を支援すること

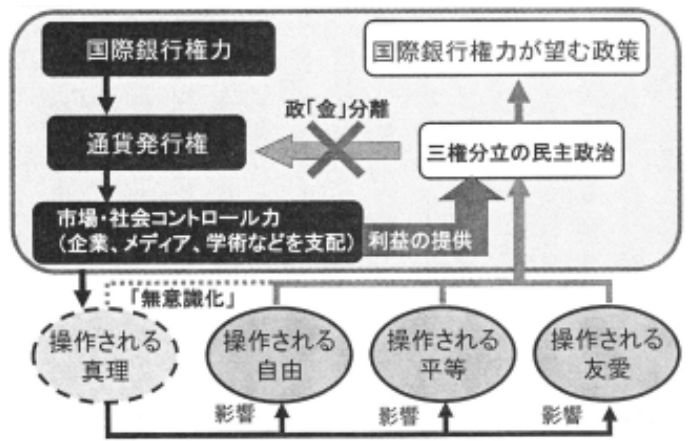
で自らの通貨発行権から目を逸らさせる革命理論を作り出

していきます。

革命家の側も多大な支援をしてくれるスポンサーの悪口を言うわけにはい

なくなります。

通貨発行権に触れない革命理論の指導下で行われる革命は、ライバルを潰すことはあれ、銀行家にとつての既得権益は守ら



れます。

民主主義と人権を利用したライバルの転覆は国際銀行家にとつて十八番の戦略となり、現在まで多用されています。

もちろん、どの時代においても現場の革命に参加している市民は命懸けであり、多くが純粋な理想主義者です。

銀行家が支援する活動は、当時の封建主義的な支配システムを打倒するための魅力的な理論であり、多くの市民がそれに加わり

ました。

銀行家にとつて革命は事業であり、市民にとっては理想でありました。

民主的な理想主義と、権力獲得手段のための銀行家の連合は、現代まで続く現象です。

銀行は国家にマネーを貸し始め、中央銀行になった

戦争 イングランド×フランス

民間銀行家: マネーを貸しましょう。でも条件があります。私に国家の正式な紙幣の発行権をください。

イングランド国王: マネーがありません(汗)。国債を発行してマネーを集めないと!

中央銀行の誕生!(政府から独立した組織)

2つの絶対的な力を持つ

- ◆紙幣の発行権
- ◆政府の銀行

イングランド銀行

他の民間銀行 市場 政府 } 掌握!

リチャード・ヴェルナー 「日本銀行24のヒミツ」(実業の日本社)より

# マスコミの歴史と仕組み

## ▼「ニュースの御問屋」

お金と同じくらい我々の生活に密着しているものにマスコミがあります。普段の生活の中で見聞きするテレビや新聞からのニュースです。

我々は無意識のうちに、マスコミが流す情報によって日々の考えや行動、価値観、常識、あるいは生き方そのものまでも大きく左右されているのではないのでしょうか。

お金とマスコミの関係は非常に深く、マスコミの歴史と仕組みを知ることは、お金について知ることと同じくらい重要です。

マスコミといえば、多くの人々はまず大手新聞社やテレビ局を想像しますが、その大元に「ニュースの御問屋」である通信社から発信テレビ局が受け取り、テレビのニュース

番組や新聞という形で情報が届けられる仕組みになっています。

現在でも、通信社が一般市民に直接ニュースを送り届けることはありません。

せん。

私たちにとって

は、(共同)(ロイター)(AFP)などとニュースの記事の片隅に小さく見かけるだけの存在にすぎませんが、その通信社がマスコミの根幹を握っています。

通信社における近代の歴史を振り返ってみると、一九世紀の三大通信社は、フランス(アヴァス通信社)、ドイツ(ヴォルフ電報局)、イギリス(ロイター通信)の通信社で、二〇世紀には、アメリカ(A P通信)、イギリス(ロイター通信)、フランス(AFP)の通信社が情報を支配しました。

これらの通信社の勢力は、その



世界の通信社

当時の国家の力をそのまま表しています。これらの国家が世界で勢力を広げた背景には、通信社の存在がありました。情報を制するものが世界を制したのです。

生き馬の目を抜く戦争やビジネスの世界において、武力や資本力はもろろん大事であるが、何よりもまず情報がなければ相手より優位に立てない。そこで、欧米各国の資本家(国際銀行家)や政府が注目したのが、情報の収集であり、情報の発信です。

情報収集によって、世界情勢や相手国の情勢をつかんで、攻略の計画を立てる。また、情報発信により、相手を騙したり、攪乱したりして、自分に有利な状況を作り上げ

る。情報の本質とは、我々一般人が考えるような双方の交流コミュニケーションではなく、相手を攻略するための一方的な手段なのです。

ロイター通信(イギリス)は現在、世界最大の通信社であり、金融・経済ニュース部門では世界一の売上を誇ります。世界一五〇カ国に支局を持ち、世界各国の主要なマスコミのほとんどはロイターと契約しているロイヤル・ド・フランドル財閥の企業です。

アメリカの通信社AP通信は、一般のニュース配信では世界一の規模を誇ります。約五〇〇〇のテレビ局とラジオ局、約一七〇〇〇の新聞社と契約し、世界三十一カ国で活動を繰り広げるアメリカ最大の通信社であり、ロックフェラー財閥の所有する企業です。

通信社の始まりは、ロスチャイルド一族に有利な情報を提供するところから始まりました。金融の分野と同じく、まずはヨーロッパの情報社会が独占支配され、アメリカではロックフェラー財閥が主要新聞社を束ねてAP通信を作り、そこを通じてアメリカの情報社会が支配されました。

今では、両財閥が運営するロイター通信、AP通信、AFP通信

(旧アブラス通信)の上位三社が、全世界の九〇%のニュースを配信しています。

その目的は、彼ら国際銀行家の利益のためであり、一般視聴者に流されるのは、彼らが我々に信じてほしい情報ばかりです。

この構図がわかれば、これらの通信社が、中立で公平な情報を流すことなど初めから期待できないことがわかるでしょう。

ニュースの取捨選択と解釈が一方的にされているのです。まず、世界に無限に存在する事象の中から、何が報道されるべきか、彼らによって決められます。そして、ある事件については、彼らの利益になるような偏った見方だけが報道され、また別のニュースでは、都合の悪い情報は隠されるという形でニュースが操作されます。

また、場合によっては、事件そのものがでっち上げられるというケースまであります。

現在、ロイター通信はコンピュータによる経済・金融情報の提供によって、「今ではロイターなくして世界の市場は動かない」という状況にまで発展を遂げています。

ロイターが流すニュースによって、お金が動き、市場が動き、世界が左右される。我々が注意しておきたいのは、様々なニュース報道は、一見関係ないようなものでも投資市場の動きを意識したものであるということです。

投資家に投資の材料として提供されているということです。さらには、ニュースの提供という目的を超えて、通信社自身がニュースを使って投資家の心を揺さぶり、金融市場を操作するという仕組みになっています。

通信社の本来の雇い主である国際銀行家の利益のために、一般の投資家を欺く情報を流すことが、通信社の役割となっているのです。

過去の世界恐慌を例に挙げると、

でもなく、マスコミ報道を信じて投資にのめり込み、近年のリーマン・ショックで企業や一般市民が大幅な損害を受けた事実を見れば明らかです。

通信社がジャーナリズムであるというのには、その成り立ちを知らないがゆえに抱く幻想にすぎません。

通信社から配信されるニュースの受け売りをそのまま一般大衆に報道する新聞、テレビに至っては、一部の例外はあるにせよ、ジャーナリズムとは遠くかけ離れたものになっています。

一般の事業のみならず株や債券の取引では誰よりも先に関連情報を得ることができた者が利益を手に入れます。

経済活動においては、マネーを作り出す手段とともに、情報を制する者が市場を制するのです。そのことは昔も今も変わりません。

情報を誰よりも早く手に入れる手段を国際銀行家は早くから整備しました。近代の国際情報機関は国際銀行家たちが構築したものです。

当初は誰よりも先に情報を得るのが目的だったが、そのうち情報を独占しコントロールするようになり、それが通信社の設置でした。

こうして欧米発のニュース配信に世界が染まっているのが現在まで続くマスコミを通じての情報操作の実態なのです。



マスコミの大元は通信社



マスコミの今

▼マネーとマスコミの情報操作は最強のマインドコントロール

マスコミの目的は、利益の追求です。

そこには情報産業としての利益と市場を操作できる利益があります。

そしてマスコミ権力の肥大化は、マネーの国家や社会をもコントロールしていく最強のマインドコントロール兵器となります。

マスコミの情報操作と通貨発行権の独占に基づくマネーの社会操作が結び付くと、市民はもろん世界をも手玉に取る事が可能になります。

マネーの性質を用いて資本主義の操作を行い、景気変動を起こす。しかしマスコミはそれをマネーの操作ではなく別の観点から説明する。そうすると、市民はそれが景気変動の真因だと信じ込む。

操作する側は最初から分かっているから、株や不動産の投資で儲け放題となります。

一方、情報をマスコミを通じて受け取る市民は、マネーとマスコミの情報操作の餌食になり大損をする。

マネーのステルス(隠密)性で目くらましにされ、マスコミの情報伝達の段階でマインドコントロールをかけられる。

資本主義社会においては、通貨

発行権とマスコミを握ってれば競争で負けることはない。

これはほんの一例であり、ありとあらゆる組み合わせでマネーとマスコミの情報操作の

コラボレーションは活用できる。こうなれば政治権力でさえも欺くことが可能である。

こうして世界は、マネーとマスコミの支配者に手玉に取られてきました。

▼アメリカの中央銀行「FRB(連邦準備制度理事会)」

FRBが設立されるまでアメリカ合衆国には長い間、中央銀行が存在しなかったが、イングランド銀行の所有者たち株主の銀行家たちは、一七七六年の建国以来アメリカにも同じ中央銀行を設立しようとは何度も試みてきました。

アメリカの巨大財閥を仲間に取り込むことに成功した欧州の銀行家たちは、1913年、民間が所有するアメリカの通貨・ドルを発行する中央銀行、FRB(連邦準備制度理事会)を創設し、アメリカは欧州銀行家の支配を受けることになりました。

アメリカの巨大財閥を仲間に取り込むことに成功した

913年、民間が所有するアメリカの通貨・ドルを発行する中央銀行、FRB(連邦準備制度理事会)を創設し、アメリカは欧州銀行家の支配を受けることになりました。

ただしアメリカ人が中央銀行という名前に反発を示すことを考慮し、「連邦準備制度理事会」という分か

りにくい名称にしたようです。

FRBの実態、ニューヨーク連邦準備銀行の株は、ロスチャイルド財閥の銀行がそのほとんどを保有しており、アメリカ政府は一株も保有していません。

アメリカの経済の安定のためと称して、設立されたアメリカの中央銀行は、民間人の資金で設立され、その支配権も利益も民間の銀行家の手に委ねられた完全な私

有企業なのです。以後、アメリカ政府が紙幣の発行をする時は、FRBに債券を発行し、FRBからドル紙幣を受け取るようになります。

債券を受け取ったFRBには所定の利子が政府から支払われ、FRBの株主たちに配当金として分配されます。

それまでアメリカには所得税が無かったのに、FRBへの配当

金を支払うために所得税が創設されました。

つまりFRBの株主たちへの配当金は、一般大衆の税金によってまかなわれるという、信じがたいシステムです。

また、マスコミを通じた世論操作の力は絶大なものになっていました。多くのアメリカ人は、国家が乗っ取られたことに気付かなかったのです。

表向きは民主制が続いていたので自分たちの主権は維持されていたと思っていたのです。

操作される民主主義の「極意」は市民に気付かれないようにすることです。

まさに金融とは、気付かないうちに国家を征服する「沈黙の兵器」です。

アメリカの通貨発行権の獲得は、銀行家勢力が作り出す操作される民主主義の全盛期を作り上げ

ました。アメリカには歴代の大統領が国を守るため、命をかけて中央銀行と戦ってきた歴史があります。創成期のアメリカは、まさに政府と銀行の戦いの連続でした。

イギリスの中央銀行の支配者たちは、アメリカに

中央銀行を設立し、通貨の力で国をまるごと所有してしまおうと画策しました。それに対し、アメリカ合衆国建国の父たちが激しく抵抗して起きたのが独立戦争です。

つまり、一七七五年から一七八三年まで争われた戦争とは、国家の「独立」のためではなく、通貨発行権をめぐる戦いだったのです。

その結果、アメリカは見事、独立を果たし、国家として認められることになったものの肝心の通貨発行権の戦いには負けました。

初代ワシントン大統領は、紙のお金が生み出す危険性をよく知りながらも、中央銀行の設立を20年の期限付きで認めてしまったのです。

ジャクソン大統領は、二度の暗殺未遂事件を切り抜け、「銀行は不要!大統領にはジャクソン!」のスローガンで大統領に再選すると、「貴様らのような悪党や泥棒の一味は、永遠なる神の力を持って一掃してやる!」の言葉どおりに、ビルドの中央銀行(第二アメリカ合衆国銀行)を潰すことに成功しました。

その後七七年間、アメリカに再び中央銀行が設立されることはありませんでした。彼の墓石には「私は銀行を潰した」と刻まれています。

第一六代リンカーン大統領は、南北戦争の背後にアメリカを分断し弱体化させ、再び中央銀行の設立を企むロスチャイルド一族の存在を知り、彼ら銀行家に頼らないグリーンバックという「政府紙幣」を発行しました。

「私には二つの強敵がいる。南軍とその背後にいる銀行家だ。私にとって最大の敵は銀行家である。」

そして、戦争の結果で最悪なことは、企業が王座を占めることだ。そうならば、ひどい腐敗の時代が訪れるだろう。

お金の力は、人々の目を騙し、富が一握りの人々に集中し、共和国が崩壊するまでその力を失うことはないだろう」

「金の権力者たちは平時には国民を食い物にし、有事には罌を仕掛ける。その様は、絶対君主よりも横暴で、独裁者よりも横柄で、官僚制度よりも利己的である。」

そして、彼らは自分たちのやり方や犯罪行為を指摘する者を公衆の敵と呼び、攻撃を加えるのだ」

「政府には信用と通貨を創造する権利があり、その信用と通貨を税金やその他の形で回収する権利も持っている。」

政府の運営や公共事業のために利子を払って資金を借りる必要もなければ、そうするべきでもない」

「私は銀行を潰した」と刻まれています。

「私は銀行を潰した」と刻まれています。

通貨発行権を取り戻そうとした人達



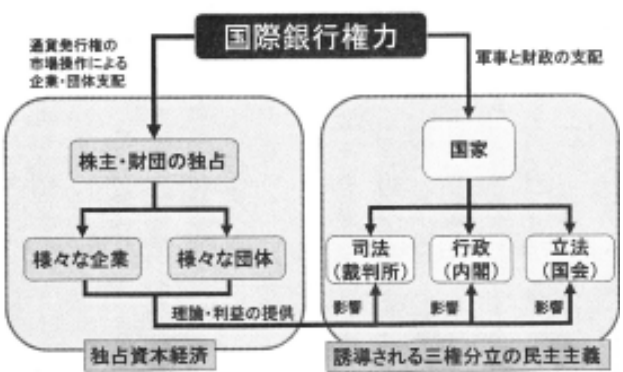
領

▼銀行家と闘った大統領

アメリカには歴代の大統領が国を守るため、命をかけて中央銀行と戦ってきた歴史があります。創成期のアメリカは、まさに政府と銀行の戦いの連続でした。

イギリスの中央銀行の支配者たちは、アメリカに

【国際銀行権力の政「金」分離した三種分立型民主政治への影響と管理】



「私には二つの強敵がいる。南軍とその背後にいる銀行家だ。私にとって最大の敵は銀行家である。」

そして、戦争の結果で最悪なことは、企業が王座を占めることだ。そうならば、ひどい腐敗の時代が訪れるだろう。

お金の力は、人々の目を騙し、富が一握りの人々に集中し、共和国が崩壊するまでその力を失うことはないだろう」

「金の権力者たちは平時には国民を食い物にし、有事には罌を仕掛ける。その様は、絶対君主よりも横暴で、独裁者よりも横柄で、官僚制度よりも利己的である。」

そして、彼らは自分たちのやり方や犯罪行為を指摘する者を公衆の敵と呼び、攻撃を加えるのだ」

「政府には信用と通貨を創造する権利があり、その信用と通貨を税金やその他の形で回収する権利も持っている。」

政府の運営や公共事業のために利子を払って資金を借りる必要もなければ、そうするべきでもない」

「私は銀行を潰した」と刻まれています。

「私は銀行を潰した」と刻まれています。

「私は銀行を潰した」と刻まれています。

リンカーンが推し進めて発行した政府紙幣は、絶大な経済効果

を發揮しました。中央銀行に支払う利子の発生

しない政府紙幣が有効であること

を証明したのです。しかし、この紙幣もリン

カーンの暗殺とともに消えてしまいました。リンカーンは在任中に暗殺

された初めての大統領です。その黒幕には、政府紙幣の

発行を快く思わなかった国際銀行家の存在があったことを指摘

する声は多い。第二〇代ガブリエル大統領は、就任してまもなくFRB(中央銀行)への不快感を表明しま

す。「誰であろうと貨幣の量をコントロールする者が全ての産業と商業の絶対の主である。最上層のごく一部の権力者が全

てのシステムをいとも簡単に操っていることに気づいたら、インフ

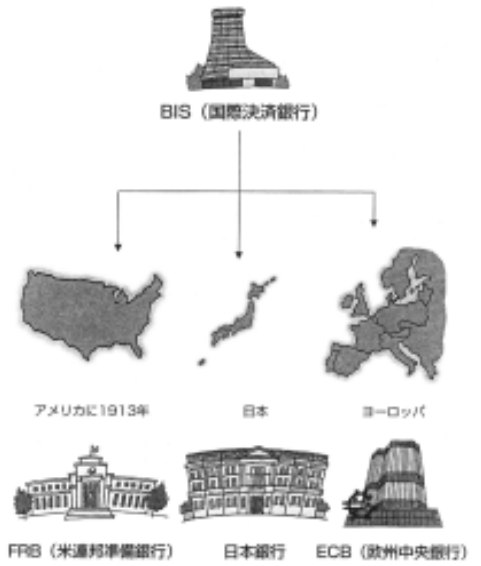
レと不況がどのように起きるか

など、人に聞かなくてもわかるはずだ」彼は、この二週間後に暗殺さ

れ、リンカーンに続いて在任中に暗殺された二人目の大統領となりました。

第三五代ケネディ大統領は、一九六三年六月に通貨発行権をFRB(中央銀行)から政府の手に取り戻すことに成功しました。しか

金融財閥連合の管理化にあるヨーロッパが世界を支配している、このシステムが世界標準に



\*アメリカの場合は、中央銀行がなくても世界一の経済大国になっていた。だから、「中央銀行は国家の発展のためになくてはならないものだ」という論議の有力な反論になる。

し、そのわずか半年後には暗殺されました。その後、彼の刷った政府紙幣は

即座に回収され、それ以来、通貨発行権を取り戻そうとする大統領は出てきていません。

また、第四〇代レーガン大統領は、アメリカ国民の所得税が全てFRB(中央銀行)への利子の支払いに充てられていることを調査

した後、暗殺未遂に遭っています。以上が、銀行家に対する歴代の

アメリカ大統領の命がけの戦いですが、議会においてもFRBを痛烈に批判する発言を議事録に残しています。

「議長、我が国には世界一腐敗した組織があります。FRBのことです。この不正な組織は、アメリカ国民を貧乏にし、アメリカ政

府を破産に追い込むでしょう。FRBは政府機関ではなく、自らの利益と外国の顧客のために、合衆国の国民を食い物にしている

▼「日本銀行」 「日本銀行」(日銀)は、明治一

四年(一八八一年)大蔵相だつた松方正義によつて設立された。松方はロスチャイルド

も呼ぶべき腹黒い彼らの中には、小銭を奪うために相手の喉元を切り裂くこともいとわないう者もいるのです」

彼は正義感にあふれた気骨のある人物だったが、二回の暗殺未遂の末に毒殺されてしまいました。

最近では、FRBのからくりと虚偽にまみれた正体に気づいた多くの国民と共和党ロン・ポール氏のような政治家が、「FRBを潰せ!」政府に通貨発行権を取り戻せ!という運動を立ち上げています。

現在の大統領選でも、民主

党予備選で健闘したサンダー

ス氏や共和党候補トランプ氏は、ウォール街の銀行家(1%の富裕者)からの支援を受けています。

日本は、日本と国民の経済発展のために存在するとされている

ますが、その実、政府と国民の意思を反映する機関ではありません。

日本政府から独立した機関であり、紙幣をどれくらい創るか、あるいは創らないかを自由に決める権限を持っています。また日銀総裁は国民の選挙でなく、日銀関係者内部の一存で決められ、国民は選ぶ権利を持ちません。

曖昧な定義の組織で、完全な政府組織ではありません。日銀の持ち株の五五%は政府が

所有することになっているが、残りの四五%の株は政府以外の民間人の所有となっている。

ある説では、ロスチャイルド一族と天皇家が二〇%ずつ持ち、残り五%を個人や法人が持つと言われたりするが、実際のところは、情報は非公開のため、事実不明である。

お金の量が全体で増え、実質経済に回らなければ経済規模(GDP)には影響しません。現在のアベノミクスも同様です。

▼ケインズ理論と財政赤字の拡大

世界恐慌で混乱する経済状況でイギリスの経済学者ケインズの理論が注目されます。

「世界恐慌のような消費が伸びない状況では、市場に勝手にまかせていても不況は深刻になるばかりである。そこで、政府が財政支出を行い、需要を作り出し、消費を増やせば景気は回

復する。」消費が伸びず、商品の値段が下がるデフレ不況期であれば、政府が通貨を発行して公共事業を行うことで、財政赤字を作らず、インフレにもならず景気を回復させることができます。

しかし、政府が通貨を作らないシステムで、財政出動を説いたケインズ理論を行えば、必然的に国債の膨大な発行以外に選択肢がなく、莫大な財政赤字を創出します。

政府はますます借金漬けになり、多くの国債を購入する国際金融財閥の利益と権限の拡大につながります。

▼世界の中央銀行を束ねる国際決済銀行(BIS)

世界各国の中央銀行の頂点には、中央銀行を束ねる国際決済銀行(BIS)という存在がある。

国際銀行家は、中央銀行を設立してその所有権を直接握る、もしくは中央銀行の集まる会議で指示を与えて間接的に支配する。

指示を受けた各国の中央銀行は、決められた量のお金を発行し、政府や銀行に貸し付けて利子を取る。

これにより、景気、不景気やインフレ、デフレが決まる。国の経済は、このようにコントロールされるのです。

そして、中央銀行に借金を負う政府は、その返済のために国民から必要以上に税金を取り立てなければならぬ。負担は最終的に、我々国民に全て課せられます。

ちなみにアメリカの場合、国民の所得税は、全てFRBへの利子の支払いに充てられています。

国際決済銀行は「中央銀行の中央銀行」とも呼ばれる。国際決済銀行は、もともと一九三〇年に第一次世界大戦で敗戦したドイツの賠償金の支払いを統括する機関として設立され、本部はスイスのバーゼルにあります。そして、この銀行を代々取り仕切っているのは、ロスチャイルド一族の血縁者です。

国際決済銀行が世界中の中央銀行にそれぞれ指示を出し、世界中に回る通貨の供給量がコントロールされます。

▼銀行家は世界の支配者

国際銀行家は、中央銀行を設立してその所有権を直接握る、もしくは中央銀行の集まる会議で指示を与えて間接的に支配する。

指示を受けた各国の中央銀行は、決められた量のお金を発行し、政府や銀行に貸し付けて利子を取る。

これにより、景気、不景気やインフレ、デフレが決まる。国の経済は、このようにコントロールされるのです。

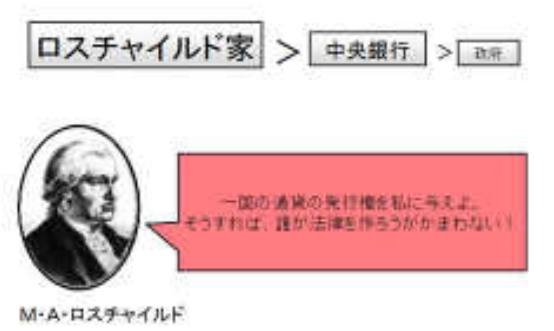
そして、中央銀行に借金を負う政府は、その返済のために国民から必要以上に税金を取り立てなければならぬ。負担は最終的に、我々国民に全て課せられます。

ちなみにアメリカの場合、国民の所得税は、全てFRBへの利子の支払いに充てられています。

国際決済銀行は「中央銀行の中央銀行」とも呼ばれる。国際決済銀行は、もともと一九三〇年に第一次世界大戦で敗戦したドイツの賠償金の支払いを統括する機関として設立され、本部はスイスのバーゼルにあります。そして、この銀行を代々取り仕切っているのは、ロスチャイルド一族の血縁者です。

国際決済銀行が世界中の中央銀行にそれぞれ指示を出し、世界中に回る通貨の供給量がコントロールされます。

世界の中央銀行



「一國の通貨の発行権を私に与えよ。そうすれば、建が法律を作ろうがかわない!」 M・A・ロスチャイルド

「一国の通貨を発行する権利を私に与えよ。そうすれば、誰が法律を作ろうがかまわない」

「金の出る蛇口が手に入った以上、大統領の地位も議会も不要」

彼らの考えでは国の通貨を押さえてしまえば、法律や政府や議会などはどうでもよいということだ。

彼らの言葉からは、民主的で合法的なやり方でなく、お金の力で世界を支配しようとする姿勢が窺えます。お金を無限に作る権利を手に入れて、その力で世界を支配しようという哲学です。

▼戦争と国際銀行家

戦争は国と国とがいがみあつて起こるのではなく、意図的に起こされます。

戦争は、あらゆるものの中で一

番お金のかかることです。いかなる形の戦争もその背後の銀行家や財閥の存在抜きにはありえませんが。

彼らは膨大な富を使い、戦争当事国の両側に彼らの代弁者である政治家を雇って権力の座に置き、武器を双方の国に売りつけ、世界中のどの国や地域でも戦争を意のままに起こすことが可能でした。

たとえば、ナチスドイツ。

歴史の授業では、いきなりファシズムが台頭して、ヒトラー率いるナチス党が突然ドイツに現れたように教えられるが、当時のドイツは第一次世界大戦に負けてベルサイユ条約で決められた莫大な賠償金がありました。

その賠償金の返済もままならないのに、あの強大な軍隊と武器を買ひ揃えるお金が一体どこにあったのか。

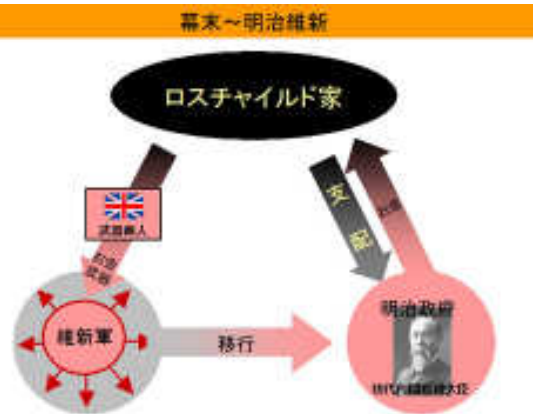
ドイツ政府は、そんな大金など持つていなかったはずですが、では、ナチスが手にしていた莫大な軍資金はどこから来たのか？

財閥らは、資金提供のほかにも軍需物資、化学物資の提供や収容所の建設などあらゆる面でナチス・ドイツを支えています。

彼らは本来ドイツの敵であるイギリスやアメリカの連合国軍側です。

母親の言葉通り、近代に起きた世界中の戦争はすべて、彼女の息子たちが支配する国際金融権力によって、立案され、計画されま

した。当事国に必要な「資金と武器」の供給を行い、その全ての支援を受け、意向を受けた政治家が両国に配されます。



▼操られた日本の戦争

明治以降から現代に至る歴史の中で、特に戦争とお金の分野ではいつもロスチャイルド家、ロックフェラー家が深く関わってきました。

彼らはけっして歴史の表舞台に出てくることはありませんが、彼らに仕える政治家によって実行されてきました。

①明治維新

日本の明治維新は、坂本竜馬などの活躍による薩長連合によって幕府が倒され、鎖国から開国へと日本の近代化が始まったと賛美されます。

しかし、戦争には武器が必要であり、その武器を買うにはお金が必要です。

強大な江戸幕府を薩長連合で倒すのは相当なものです。その武器とお金は誰が用意したのでしょうか？

教科書には、このお金の流れに全く触れられていません。

あたかも「革命」が起きたかのようにいわれますが、真相は、長崎グラバード邸で有名な武器商人グラバーにより、もたらされたものだといわれます。

グラバーはイギリス・マセソン商会(ロスチャイルド財閥)の代理人でした。

グラバーは、幕末の混乱に着目して、竜馬を使って薩長を結びつけ、その後、両藩を支援して幕府を転覆させようと計画しました。

グラバーの手引きにより、敵対していた薩摩の五代友厚と長州の伊藤博文にイギリス留学を斡旋し、交流させたり、長州の5人の若者(長州ファイブ)を留学させました。

今の価値で10億円とも推測される留学費用はマセソン商会が負担しており、イギリスでは文

字通りマセソン・ボーイズと呼ばれています。

ロスチャイルドやマセソンにかわいがってもらった5人の若者たちは日本に帰り、明治政府が出来た後、日本の最高指導者になります。

明治維新をロスチャイルド側から見ると

日本と貿易を始めたグラバーは幕府の体制が古いためうまくいきません。

そこで、倒幕派の下級武士に資金と武器を提供し、クーデターを起こさせます。

自分たちが教育し、支援した若者たちが政府を転覆し国を乗っ取ります。彼らを通じて日本を支配し有利な関係を結びます。

②日清戦争

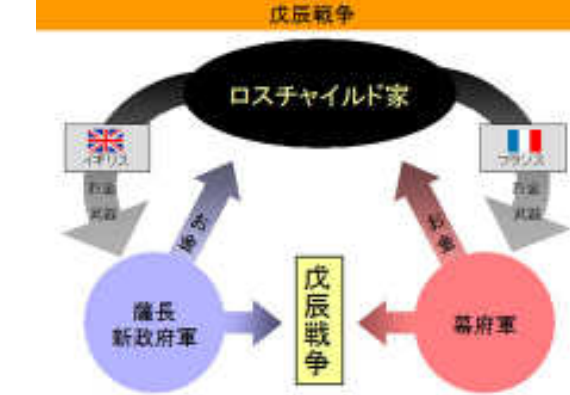
日清戦争は見かけ上は日本と清国が朝鮮半島の覇権をめぐる戦争に至ったことになっていますが、金融の面から見た場合、両国とも戦費をイギリス・ロスチャイルド系銀行から借りており、清国から日本に支払われた賠償金も、実質は、イングランド銀行に流れ戦艦三笠の建造費支払いにイギリス産業へカネが動いていたことが判明しています。

つまり、日清戦争というイペントで発生した戦費や賠償金の大半が英国の銀行間で行き来しただけで、動いたカネを日本と清国が背負い、その後、そのことに縛られていくことになりました。

③日露戦争

当時の英国にとって、ロシアは脅威であり、それを抑止するため日本に力が必要でした。

疲弊していた英国は「日英同盟」は「英国の自衛」のためとい



しかし、所詮、イギリスの後押しでできた傀儡政権ですから、不満を持つ者も多く出てきます。そこで、新政府を相手に、不満を持つ旧幕府軍が闘いました。

多くの悲劇を生んだ内戦(戊辰戦争)です。



うのが、最大の理由でした。だから英国は、日露戦争時、観戦武官を大量に派遣し、日本軍の作戦会議にまで参加しています。日本がロシアに負けてもらっては困るからです。

海においては、三笠など英国製の軍艦が活躍し、日本海海戦でバルチック艦隊を撃破しました。

小国の日本が大国のロシアを相手に戦いました。この戦争は、有色人種が白人相手に勝利した初めての戦争といふこともあり、当時の日本国民はおるか、白人の支配下にあった東南アジアをはじめとする植民地の国々は狂喜乱舞しました。

さて、日露戦争もロスチャイルド家の視点から見ると、イギリスやアメリカのようにまだ支配下にない大国ロシアを、育て上げた日本と戦わせ、封じ込める戦争でした。

そのために日本に戦費を貸し付け、自分たちの会社の武器を買わせ、ロシアと戦わせ、ロシアを叩いた上で日本からも巨額の利子を取り上げるという構図です。

形として、戦争には勝ったものの戦勝国の利権である賠償金はロシアから一切もらえませんでした。



政府はロスチャイルド家とその仲間であるジェイコブ・シフに高い利子と元金を払い続ける羽目になりました。

国家財政は火の車、不満を持った国民が東京で暴動を起こし、戒厳令が敷かれたほどです。

ロシアは戦争に負け、日本は経済的な大打撃を受けるだけに終り、結局この戦争で勝ったのはロスチャイルド家だったので。

莫大なお金がかかる近代的な戦争で国家が借金漬けにされる一方で、その楽しさを植えつけた日本の上層部は、その後、競争ビジネスの深みにどんどんはまっていきました。

ロスチャイルド一族から日本へ与えられた次なる競争ビジネスへの招待は、中国侵略と満州国の建設でした。

### ▼戦争中毒

第一次大戦後の1919年、ロスチャイルド一族は、BIS(国際決済銀行)を設立します。

その名目は、敗戦国のドイツから賠償金を取り立てるためだったが、

その裏ではこの銀行から日本やドイツに戦費が貸し出されていた。それはなぜか？  
ロスチャイルド一族は、イギリ

### 仕組まれた真珠湾攻撃



ス・フランス・アメリカなど連合国側であるが、戦争は敵がいなければ成り立たない。そこで、敵側となるドイツや日本にあえて資金提供がなされたのです。

彼らは第一次大戦後に国際連盟を立ち上げる一方で、次の戦争の準備をしていました。

資金提供を受けた日本軍は、1931年に満州に攻め込み、そこで数々の財宝や麻薬を手に入れます。関東軍師団がハルビンに入城すると現地のユダヤ会堂には首尾よく、ロマノフ王朝の財宝が数多く置かれていたり、チンタオの中国銀行の倉庫には大量の麻薬が置いてあったりしました。

これらの物資が満州国建設の資金になったが、全て国際銀行家が日本を戦争の深みへ導くために与えた甘い汁だったので。  
莫大な富を手にして欲に駆られた軍人は、もはや歯止めが利かなくなり、

### ▼戦争はビジネスである。

日本の財閥はアヘン売買に手を染め、ペルシャから仕入れて中国人に売りつけることで莫大なお金を儲けました。

国際決済銀行は戦時中、英米と日本・ナチスの両陣営と取引を続けることで、戦争の長期化を可能にしたのです。

当時の天皇財閥や軍部は、彼ら国際銀行家の指導を受け、戦争を実行して我欲のままに富を蓄積していたことになりました。

国民や兵士にとっては命がけの戦争でも、彼らにしてみれば単なる金儲けにすぎません。

ただ、その規模があまりにも大きく魅力的だったため、やめることができなかったのです。

その一方で、国民にはもつともらしい民族主義の大義名分が与えられたが、それらは聞こえのよい嘘以外の何物でもなかったのです。

### ▼太平洋戦争と原爆の裏側

太平洋戦争については、いくつもの疑問が残ります。

中国と一〇年に渡り泥沼化した戦争を続けながら、さらに大国アメリカとの戦争に踏み込んだので

す。  
普通に考えたら、日本のような小国が同時に二つの大国と戦うなど、あまりにも無計画で無謀なことです。

太平洋戦争の流れには、戦争のプロである国際銀行家が日本に資金提供しながらたくみに戦争の深みに引きずり込み、上層部にたつぷりと甘い汁を吸わせ、戦争をやめられない状態にしておいて、最終的には原子爆弾を落とすというシナリオを仕組んでいたことが読み取れます。

なぜなら、日本に中国侵略の資金を用意したのも、戦争を継続させるために軍需物資を提供し続けていたのも、原子爆弾を製造して日本に投下したのも、すべて同一のロスチャイルド財閥を中心とする国際銀行家だからです。

### ▼世界恐慌の裏側

国際銀行家が起こす歴史上の出来事は、戦争だけではありませぬ。金融恐慌も彼らが意図的に起こすことの一つです。

その代表的なものに、一九二九年の世界恐慌があります。繁栄の頂点にあったアメリカのニューヨーク株式市場の株価が大暴落し、これをきっかけに多くの銀行や工場が潰れ、失業者が街にあふれ、多くの自殺者を出しました。混乱は世界中に広まり、日本も大きな影響を受けました。

これも戦争と同様、通史では当時の政策の失敗や社会状況により、成り行きで起きたこととされていますが、少数の国際銀行家によってたくみに仕組まれたことでした。

世界恐慌を意図的に起こし、アメリカ国民から巻き上げたお金を、ナチス・ドイツという敵を作

り出したという構図です。

第二次世界大戦は、英米の国際銀行家が資金作りの段階から用意周到に仕組んだ戦争だったので

す。  
そして、第二次世界大戦の歴史を知る上で、何よりも忘れてはいけないことがあります。

それは、ユダヤ人の大虐殺や広島・長崎への原爆投下など、戦争の残酷性がかりがクローズアップされることで、一連の非人道的行為が、そもそも誰の手によって起こされたことなのかという肝心なポイントから人々の注意を巧妙にそらされていることです。

これらのスポンサーが誰であったのかは、学校教育でも教えられないし、テレビでも伝えられることはありません。表面的な出来事ばかりが教えられ、議論され、反省されることで、決着がついたかのような幻想が作り出されています。

肝心なことが全てかき消されてしまっているのです。人々の悲しみと反省の感情につけ込んで、知性を鈍らせている一例ともいえます。

国際銀行家の存在を視野に入れて歴史を振り返ると、私たちが学校で習う歴史上の登場人物、政治家や軍人などは彼らに操られたゲームのコマであり、脇役にすぎないということになります。

### 正当化された原爆投下 1945年



6月6日 広島 (つひの原爆「リトルボーイ」)  
8月9日 長崎 (ポルトニコウ原爆「ファットマン」)

# 孫への手紙 (5)

## テレビと催眠術

保育園の夕涼み会の写真をみせてもらいました。昨晩は、村の夏祭りで大はしゃぎでしたが、今日は風邪気味で熱があるようです。

季節は、夏、暦の上では晩夏、小暑(二十四節気)の末

候、「鷹及学習」(たかすなわちわざをならう)、今年、生まれた鷹の幼鳥が飛ぶことを覚えて、空に飛び立つという意味です。

「なぎ」とは、平坦な安定した状態を表す言葉で、古語でもあります。「なぎ」という発音が先になり、後から様々に漢字が当てられ、和ぎ・風・薙ぎとも表記されます。反対語として「荒れ」、「波」、「起伏」があります。

海は風が止んで「風」となり、丘に百日紅(サルズベリ)の花が「咲」と、風咲の季節です。もうすぐ、8月5日、満2歳の誕生日ですね。

爺が朝、歯磨きをしている

と、「ジージー」といつて足にしがみつくので、何ともいえない気分になります。この前は、カギをかけずにトイレに入っていたら、トイレの中にまで入ってきたので、困ってしまいました。

今日は、朝早く、爺が寝ているところに入ってきて、「ジー

ジー起きて」というので、起き上がる、マッサージ器を肩に当ててくれて「肩トントン」してくれました。

大きなボールを爺に向かって転がしてくるので、キックして返したら、笑い転げて、すぐマネをしてキックしたので、爺が変なことすると同じことをするのかと思つて、爺もおりこうさんにしようと思ひました。

「お帰り」と

「ただいま」の区別がまだできませんが、でも、元気に2歳の誕生日を迎えられて、



でも、そのお店は、お友達から初めて聞いたのではなく、日米の貿易摩擦を解消する日米構造

会議で、大型店舗進出を規制していた法律が自由化を邪魔していると言われ、非関税障壁打破の目玉として注目されたから知ったのです。

日本進出一号店の開店前日、ブッシュ大統領が来日したといういわくつきの会社で、これが日本の規制緩和、自由化、市場開放の突破口となりました。

街の商店街がシャッター街になるきっかけでもあったわけ、爺は二重に抵抗があるのです。でも、「連れてって」と言われると弱ります。

▼最近、アンパンマンがお気に入りのようで、絵本の中で、バイキンマンはどこ？ドキンちゃんはどこ？という指をさして教えてくれます。

絵本の中では、最初はアンパンマンが顔を水を掛けられる、ヘナヘナになってしまうのですが、ジャムおじさんに新しい顔をもらうと元気が出て、バイキンマンをやっつけて、最後は、バイバイキーンとバイキンマンは退散します。

しかし、現実の世界は、バイキンマンが圧倒的に強いのです。アンパンマンが求める社会をつくらねばならないと、爺は痛切に思いますが、それに、みんなが「本当のこと」を

知り、悪をのさばらせないよう力をあわせなければなりません。

歴史は戦争に勝った人が自分たちの都合のよいように書き換えますし、テレビや新聞は「お金」で動きます。

お金を刷る印刷機を持つるバイキンマンは、軍隊もテレビや新聞や農業も医療も学校も何もかも手に入れて、世界支配をめざしています。

みんなにそれがバレないように、バイキンマンは上手に情報を操作して、自分の都合のよいように誘導します。

バイキンマンにとって、国は単なるサッカーチームのようなもので、どのチーム(国)を動かして、試合(戦争)をさせるのか、どの選手(政治家)にどんなプレー(演劇)をやらせるのか、どうすればみんなが熱狂し、我を忘れてるのかを考えているワールドカップ主催者(世界支配者)のようなものです。

特に、バイキンマンが手ごわいのは、自分の仲間内で運動会の赤組、白組をつくり、あたかもケンカしているようにみせて、みんながそれを本気で信じ、各々の応援団にして敵味方



婆からの誕生日プレゼント

に分かれさせてケンカさせてしまうことです。

▼爺が居間に入ると、一人で小さな椅子にすわつて、風咲がテレビを見ているのを見

ることがあります。テレビに吸い込まれそうな大きな画面から出る電磁波も気になるのですが、テレビがお友達になってしまつて、毎日、テレビを見るのが習慣になってしまつてはいないか気になります。

朝起きるとテレビをつけ、家に帰つてくると、また、テレビをつけ、テレビから流れてくるものを見て、知らず知らずうちに影響を受けます。

見る側は、何も考えずに見ていますが、映す側は、会社(商売)なので、広告・宣伝料をもらつて経営していますから、コマースシャルを流して商品が売れるように、見ている人がどんな反応するか、どう思うか、いつも考えています。

だから、商品を買うように誘惑したり、何が正しいのか、何が価値あるものか、いつも誘導しようとする側には働きかけま

▼では、何を目的に放送されているのでしょうか。まず、テレビや新聞も株式会社であり、利益を上げることが目的になり、スポンサーなど「お金」に影響されます。株主が経営方針を決めますが、最近、株主となる外国人も多くなればなるほど、その影響も大きくなります。

▼B層ターゲットかつて日本の郵便局が、国営



から民営化される時、解散総選挙(小泉郵政解散)があった時のことです。

「郵政民営化が実現すれば、350兆円もの巨額資金が日本から流れることになる。そのうち1〜2%ぐらいの費用を使って日本のマスメディアを買収し、広告を打つても惜しくない(ウォールストリート・ジャーナル)として、日本の大手広告代理店と経済紙を通して大量のお金が流れてきました。

巨額の資金による緻密なマーケティングと戦略で、どこでどのようにPRすれば効果的に「郵政民営化は正しい」「小泉は正義」と信じさせることできるかを徹底研究したようです。

2005年内閣府があるPR会社に郵政民営化の宣伝企画を依頼し、「郵政民営化・合意形成

から民営化される時、解散総選挙(小泉郵政解散)があった時のことです。

コミュニケーション戦略」というプランができました。

これは、まず、国民をABCの3つの階層に分け、A層エリート層、C層の「構造改革反対派」の二つの層は相手にせず、B層にターゲットを絞るものでした。

B層とは、主婦、子供、シルバーを中心とした階層で、難しいことはよくわからないが、ムードで小泉さんを支持している層です。

毎日あらゆる時間帯のニュースで「改革を止めるな!」「改革にYESかNOか」という単純なキーワードを徹底して国民に浴びせる。

当然、郵政民営化の問題点はほとんど伝えないうし、ましてや民営化の真の狙いである日本人の郵便貯金や保険にあるなどと

いうことは絶対に報じない。ただひたすら、「改革の旗手」

か「抵抗勢力」かという単純な図式を国民に植え付けることだけを実行しました。

フレッシュなイメージの小泉チルドレン対ダーティな郵政族という切り口で、民放のパラエティ番組をも使いながら、連日連夜国民を洗脳し続けました。

これが大手広告代理店を通して流れたアメリカの対日工作費の直接的な成果です。

A層B層C層の最大の問題点は、A層C層がIQ(知能指数)が高い層に分類され、B層をはっきりと「IQの低い層」と規定していることです。

わかりやすい言葉で、複雑な問題には触れず、ひたすらカットコいいイメージを流せばよい。論理的にものを考える事の出来

ない連中だ。要は、そういうこととす。

朝日新聞の調査によると投票に行った8割の有権者が『誰に投票するか』、テレビを見て決めた』ということとす。

正義の味方が悪役を退治する勧善懲悪の安物ドラマのような単純な対立構図を作り上げ、しつこくテレビなどでそれを繰り返せば、必ず国民はマインドコントロールされるということなのでしよう。

政治的意図を持って特定の考えに誘導する宣伝を「プロパガンダ」といいます。

郵政民営化選挙が、外資が初めて、日本の選挙に関わったプロパガンダということですが、このような事例は山ほどあります。

日本という国の主権を奪われるTPPのような大問題について、マスコミ各社は問題の真相を国民に伝えず、参加すると日本に何かいいことがあるように、「記者クラブ」仲間は、こぞって賛成報道しています。

大事なことを伝えなければならぬ時に限って、芸能人の不倫や覚せい剤事件に膨大な時間の集中報道がなされたり、あるいは、なぜ、このタイミングで北朝鮮がミサイル発射をするのか、何を意図したものなのか、疑問が生じます。



からスタートさせた方が効果が早く出るでしょう。子供がテレビやコンピューターゲームにうつつをぬかす時間を増やすための策として、母親を家庭から引き離すために女性の権利向上運動が推進されました。為政者の長期的な見地に立った効率的な支配方法です。

アメリカの教育レベルの低下は明白な事実ですから、ロックフェラーの計画は、着々と効果を表していると言えるのです。

「国境なき記者団」が、「世界報道の自由度ランキング2016」を発表しました。世界180カ国・地域を対象に採点したのですが、日本は72位と過去最低となり先進7か国で最低レベルの評価でした。

日本の報道の自由度はさらに低下するも、日本人の新聞・雑誌への信頼度は世界一です。

それだけメディアに誘導されやすいということとす。誘導電波によって、みんなが催眠術がかけられ、洗脳(マインドコントロール)されています。

▼婆が買ってくれた誕生日プレゼントはジャングルジムに滑り台とブランコがついていてめちゃめちゃすこいですね。テレビから離れ、元気に遊んでください。爺も面白い本を読んであげますからね。……

確かに国民が趣味や娯楽に熱中して毎日を楽しく生活していると、政府批判など起きにくいでしょうから政府にとっては非常に便利な政策です。

また教育や洗脳は、子供の頃

見上げてごらん夜の星を

作詞：永六輔  
作曲：いずみたく  
歌：坂本九

見上げてごらん夜の星を 小さな星の  
小さな光がささやかな幸せをうたってる  
見上げてごらん夜の星を 僕らのように  
名もない星が ささやかな幸せを祈ってる  
見上げてごらん夜の星を 僕らのように  
手をつなごう僕と追いかけてよう夢を  
二人なら苦しくなんかないさ  
見上げてごらん夜の星を 小さな星の  
小さな光がささやかな幸せをうたってる  
手をつなごう僕と追いかけてよう夢を  
二人なら苦しくなんかないさ  
見上げてごらん夜の星を 小さな星の  
小さな光がささやかな幸せをうたってる

「野球は巨人、司会は巨泉の大橋巨泉と」「朝がまるで弱い朝丘雪路です」の掛け合いが、「HPM」のオープニングだった。

家人が早く寝てくれないかとそわそわしていた思春期の思いがある。

朝丘雪路の胸を見て「どうしてボイン、ボインと出てるの？」と音感語で表現。流行語になり漫画や楽曲のタイトルにも使われ、広辞苑にも掲載された。

▼「はっぱふみふみ」

1969年、パイロット万年筆のCMで披露。台本が面白くなく「万年筆は半分の短さだが、書きやす〜」とのセリフを得意の短歌で、「みじかびのきやふりきとれば すぎちよびれ すぎかきすらの はっぱふみふみ」と撮影時にアドリブで変更。

そのナンセンスな造語が若者らの間で流行。商品も大ヒットし、当時、ボールペン人気に押されて不振だった同社の業績回復につながったといわれる。

「なんちゅうか本中華」「なんつたつて」「うっしっし」「やったぜベイビー」なども流行した言葉。

「せーのドン！」は、司会を務めた76年スタートの人気番組

「クイズダービー」。解答者の答えを一者に見せる際の掛け声として使われた。

番組では問題ごとに解答者が正解する確率の高さを予想してオッズがつけられ、その数字を表示する際の「倍率ドン！」「さらに倍！」もお茶の間の人気となった。

▼7月12日、大橋巨泉が、82歳で、亡くなった。

7月7日には盟友の永六輔が亡くなられており『テレビが終わった』、『昭和の終わりを感ずる』など、古き良き時代が失われたことを残念がるフアンの声があるというが、まさに同感である。

「咳・こえ・喉に浅田飴」は永六輔の代名詞のようなCMだったが、「上を向いて歩こう」や「こんにちは赤ちゃん」などの歌詞も手がけ、中村八大との六八コンビとして、多くのヒット曲も生んでいる。

女優・黒柳徹子(82)は「上を向いて歩こう」の歌詞について「歯を食いしばって、戦後を生きてきたその気持ちを言葉に込めたとおっしゃっていた」と永さんの思いを明かした。

▼永六輔(享年83)、野坂昭如(享年85、小沢昭一(享年83)は、「中年(三家)」(戦

# 新緑の気ままにトク

中派)として日本武道館でピートルズ並みのコンサートまでした仲間だった。

野坂昭如は、「焼け跡闇市派」を自称した作家だが、焼け野原をさまよひ、幼い妹を連れ逃げ、「福井」の地で妹が亡くなるまでの明け暮れを「火垂るの墓」という小説にしている。

彼らの遺言ともいえるべきメッセージは、いずれも「戦争をしてはならない」である。「今日の政治は国民をナメている」

憲法は為政者を縛るためにあり、憲法99条は国会議員が憲法を守らねばならないことを義務付けている。

自ら憲法改正を言い出すこと事態が、「憲法違反」であり、国民を縛るために憲法を改正しようとするなど「ちゃんちゃんおかし」…。

23年3700回続けてきた

なった。

日曜の夕方は、シャボン玉ホリデイ、エンディングはハナ肇がピーナッツに肘鉄を食らわせられる場面だった。

いつ頃からか、全くテレビは見なくなったが、中学生の頃の最もテレビが楽しかった時の思い出がある。

ラジオの『小沢昭一の小沢昭一的こころ』は、よく聴いた。「明日の心だ」のダミ声、名調子は面白かった。

浪花節から都都逸、落語、露天商の口上など子どもの頃から寄席通いというが、あれこそ名人芸、今でもネットで拝聴して一人で笑い転げる。

「うちの亭主とこたつこの柱なくてはならぬがあつて邪魔」「けんかしたときこの子をござらん 仲のよとき出来た子だ」

「山のあけびは何見てひらく 下の松茸見てひらく」?

残暑お見舞い申し上げます。

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬ」

秋立つ日に

